

2024年(令和6年)  
4月1日月曜日  
第1942号

# 京都自動車新聞



2 京ト協 物流革新25PJ小委設置  
3 春の全国交安運動ミニ特集  
4 OBD検査で警告灯点灯の事例  
5 JAF京都支部 感謝の会開く  
6 ◀インターサポート G7エス初開催  
7

発行所 京都自動車新聞社 京都市伏見区竹田向代町 51-5 (京都自動車会館内) 電話 (075) 672-0552 ファクス (075) 682-0205 メール access@kyotojidoshanp.jp https://kyotojidoshanp.jp

## ディーラー新時代③ 京都日産自動車

### EVで新たな顧客開拓へ



中村正人社長

EVの多彩な使い方を積極的にPRを展開  
EVは静かで力強い走りという車としての魅力だけでなく、環境負荷の低減や効率的なエネルギーマネジメントといったさまざまなメリットを持つ。しかし、馴染みのない企業や個人にとって、導入することで業務や生活にどのような変化が生まれるかをイメージすることは難しい。中村社長は「EVは環境にやさしいというイメージはあっても、その性能・魅力がよく分からないという声は根強い。積極的なアピールが求められている」と意気込みを見せる。

2023年9月に京都日産自動車はSOMPOケア(東京都品川区、鷺見隆充社長)と連携し、介護事業者向けのBCP支援セミナーを開催した。2024年度に介護業界でBCP策定が義務化されるため、セミナー内では中村社長自身が講演を行い、EVが自動車としての役割だけでなく、災害時に蓄電池として活用された実例や、エネルギーマネジメントとして活用

している企業を紹介し、BCP対策に役立つことを紹介した。スクラやリーフ、アリアといったEVのラインアップも展示し、性能や使い勝手などを知らせてもらう機会とした。

「大手の事業者は既にBCP対策を行っているところが多いが、小さな規模だとまだ取り組んでいないケースもあり、何かお役に立てるのではないか」と中村社長は指摘し、「新たなトピックスの話題であれば気軽に参加しやすく、今までにない顧客接点ができる強みがある」と開催の意図を話す。

今後はこうしたセミナーの第二弾の企画を検討するとともに、要望があれば同セミナーに来ることができなかった事業所を訪問し、セミナーの内容を伝えてEVが持つ魅力を広く伝えていく。

日産は2018年5月排出ゼロである環境にやさしい移動手段であるとともに、蓄電池として使用することができ、エネルギーマネジメントの観点からも効果があるため、地域社会の課題解決にも貢献できるケースがある。

「EVは走行中のCO2排出ゼロである環境にやさしい移動手段であるとともに、蓄電池として使用することができ、エネルギーマネジメントの観点からも効果があるため、地域社会の課題解決にも貢献できるケースがある。」

EVは走行中のCO2排出ゼロである環境にやさしい移動手段であるとともに、蓄電池として使用することができ、エネルギーマネジメントの観点からも効果があるため、地域社会の課題解決にも貢献できるケースがある。

EVは走行中のCO2排出ゼロである環境にやさしい移動手段であるとともに、蓄電池として使用することができ、エネルギーマネジメントの観点からも効果があるため、地域社会の課題解決にも貢献できるケースがある。

EVは走行中のCO2排出ゼロである環境にやさしい移動手段であるとともに、蓄電池として使用することができ、エネルギーマネジメントの観点からも効果があるため、地域社会の課題解決にも貢献できるケースがある。



京都府内の環境イベントではEVの多彩な魅力をPR

より、ゼロエミッション社会の実現を目指す活動として、日本電動化アクション・プログラムと名付け、日本各地で自治体や企業と一緒に地域社会の課題解決に取り組んでいる。京都府内でも、久御山町と福知山市でEVを活用した災害連携協定を締結し、災害による停電時にEVを無償貸与し、電力の供給をサポートする。「万が一の災害の際、EVは車であるため、支援物資を積んで避難所まで行くことができ、その場で給電スマホの充電や電気をとることができる。自治体への導入事例も増えてきた」と効果を語る。

地域社会貢献で若手の意欲向上にもEVに関するこうした活動は社員にとっても良い刺激になっている。若手世代はSDGs(持続的な開発目標)や防災への関心が高い。そのため、「未来につながる提案を顧客にできることはやりがいにもつながっている」と分析する。

今後は介護事業者などを含めたさまざまな企業への提案活動に力を入れ、「車を売るだけでなく、EVのメリットを活用して地域社会の課題解決を行い、地域社会に貢献できるディーラーを目指したい」と(中村社長)と抱負を語る。

### 追跡 データベース

―東京商工リサーチ編―

### 倒産数、高水準で推移

#### 1月 コロナ破綻回復の兆し

1月の負債額1000万円以上の全国企業倒産件数は、前年同月比22.9%増の701件と22カ月連続で前年同月を上回り、依然として高水準で推移している。資金繰りが上手い企業、金融機関に相談などをしないまま突然倒産してしまう企業の事例が目立つ。この

産業別にみると、10カテゴリーのうち、7業種が前年同月を上回った。特にサービス業は241件とワースト1位で、17カ月連続で前年同月を上回った。一方、20年2月以降

に起こったコロナ関連の経営破綻は1月末時点で、8253件に上った。このうち京都府は218件。今月の全国倒産件数は調査以来初めて前年同月を下回って209件となり、

ピークアウトの気配もうかがえる。業種別では食材や光熱費高騰に悩む飲食業が突出して多く、以降に建設業、アパレル関連(製造・販売)、飲料食品卸売業、食品製造、貨物自動車運送業と続く。

分析によれば、ピークは過ぎた可能性もあるが、業績回復が見いだせずコロナの後遺症に苦しむ企業はまだ多く、これからも一進一退の傾向が続くと予想する。

将来を担う子どもたちに向け、学校現場でも出前授業「わくわくエコスクール」を要望に応じて展開している。日産自動車の開発チームを講師に招き、小学校低学年の児童らに地球温暖化の状況やEVのメリットを伝えるとともに、モデルカー

産業	倒産件数	
	1月	前年同月比(増率)
農・林・漁・鉱業	8	100.0%
建設業	137	33.0%
製造業	81	9.4%
卸売業	79	46.2%
小売業	70	▲7.8%
金融・保険業	2	0%
不動産業	22	▲12.0%
運輸業	33	22.2%
情報通信業	28	21.7%
サービス業ほか	241	32.4%
合計	701	22.9%

レンタカー・代車のことなら なんでもご相談ください

**トヨタレンタリース京都**

**予約センター**

☎(075) 315-7320 年中無休

## ブロードリーフの新しいクラウドはじまる

らくらく導入、かんたん操作。  
『日常業務の効率化』をサポート!

- PC、タブレット、スマホ対応
- 必要な機能を自由に組み合わせ
- 月額契約のサブスク対応

顧客・車両・履歴管理 伝票作成業務 顧客アプローチ業務

株式会社ブロードリーフ www.broadleaf.co.jp  
〒612-8418 京都市伏見区竹田向代町51-5 京都自動車会館5F  
TEL 075-661-1050 FAX 075-661-1051